

ひとつやま
一ツ山チエ 展

< 大地に、生きる >

会期 = 2012年5月2日(水)~5月29日(火)

休館日 = 日曜・祝日

開館時間 = 10:00~18:00

入場無料

アーティスト・トーク開催 5月12日(土) 17:00~18:00

会場 LIXIL ギャラリー

東京都中央区京橋 3-6-18 LIXIL:GINZA2F

TEL 03-5250-6530 FAX 03-5250-6549

企画・制作株式会社 LIXIL

ホームページ <http://inax.lixil.co.jp/gallery/>



「Gorilla's man」1200x900x900mm 2011 新聞紙

画像をご希望の方は、メールにて画像データを送付いたしますのでお申し出ください。
ホームページのプレスリリース(PDF)からダウンロードも可能です。その他の写真については、お問合せください。
本展告知以外での使用、転載を禁じます。

【担当】大橋恵美 e.ohashi@lixil.co.jp 【担当】長谷川英子 hideko.hasegawa@lixil.co.jp

同時開催予定

『鉄川与助の教会建築 五島列島を訪ねて』展 開催中~5/26 日祝休

ガレリアセラミカ 『村上愛』展 5/8~6/4 日祝休

次回予定 『いくしゅん』展(写真) 6/1~6/27

LIXIL ギャラリーでは5月2日～5月29日に、一ツ山チエ展 <大地に、生きる> を開催します。

一ツ山チエの作品は、こよりにした紙で作られた動物の立体オブジェです。

まず印象的なのは、紙の軽さや薄さを感じさせない圧倒的な大きさとボリューム感です。2メートル近いサイヤ、ゴリラの親子、四股を踏むお相撲さんのパンと張り切ったボディが、紐状の紙をぐるぐると重ねて力強く表現されています。表情の豊かさも印象的です。おもちゃで遊ぶ子ゴリラの楽しさ、それを抱く親ゴリラの微笑み、傷ついてうずくまるサイのうるんだ目、身近な素材の持つ優しさにおおらかな野生動物の優しさが重なって見えるようです。

一ツ山チエは1982年生まれ、大学卒業後にイラストレーターの仕事をしてながら立体作品をつくり続け、最初は既製の紙紐で、次第に新聞紙を用いてリアルな動物の姿をかたちづくるようになりました。

製紙産地である静岡県富士市の、祖父の代から紙紐工場を営む家で幼少時からとてつもない量の紙類に囲まれて育った一ツ山にとって、紙は自らのルーツに組み込まれたアイデンティティともいえるものでした。工場の巨大な機械や、名字の由来でもある富士山、側に見るものすべてが大きかったことが、体感的な作品のスケールにも繋がっています。

NPOの仕事で訪れたザンビアで、密猟によって傷ついたサイの姿を見たことから「君が心の叫び 歌はいまもきこえつづける」が生まれ、映画「愛は霧の彼方に」から「Gorilla's man」が生まれました。危機に瀕している野生動物や、制作中に新聞で世界のニュースに目を留め、心を動かされたことからモチーフがインスパイアされることもあるといいます。

今展ではバイソンをモチーフに、圧倒的な自然に生きるものの逞しさをあらわします。

土の臭いのする巨大なバイソンたちが、大地をどっしりと踏みしめ歩いていく。ともに地球に生きる動物の強さ、優しさが大きく広がる風景を、ぜひ会場でご覧ください。

【一ツ山チエ Hitotsuyama Chie プロフィール】

1982 静岡県出身。
 2004 東京工芸大学デザイン学部卒業。
 2006 test,原宿 ディスプレイデザイン(07・08年にも行う)
 2008 ILLUSTRATIVE ZURICH /Switzerland
 2010 The Rare Earth Society (paper doll work shop) /Canada
 2010 Mexico wagon project (Pasagero) Mexico city
 2011 女流クリエイター展覧会/ 目黒 Claska
 2011 CHOCOLATS DES FUCHU デルト口府人のレシピグループ展 / Loop hole
 2011 DOROTHY VACANCE グループ展
 2011 Gorilla's mom/H.P.FRANCE WINDOW GALLERY 丸ビル



君が心の叫び 歌はいまもきこえつづける 2011

1800×800×700mm 新聞紙